

第4回 1/800 海底軍艦轟天号(オオタキ)の巻



昭和38年に公開された東宝映画「海底軍艦」は、ムー帝国(かつて太平洋上に存在したと云われるムー大陸の水没とともに滅亡したと思われていたが海底で繁栄を続けていた)の地上侵略に立ち向かう超高性能万能艦「轟天号」の活躍を迫力の特撮で描いたものです。日露戦争頃であった原作小説の舞台を映画化にあたって太平洋戦争後に設定し、スケールの大きな作品に仕上げられています。主役メカたる海底軍艦(劇中では「轟天」と呼称されることは無い)は元海軍軍人神宮寺大佐が太平洋戦争の劣勢挽回の為に南の島で秘密裏に建造したもので、伊号403潜の後継艦という辺りがそそります。海底軍艦は海中は勿論のこと地中や空中でも活動でき、外観上最大の特徴であるドリルの威力は想像を絶するものがあります。

このプラモデルが最初に発売されたのがいつ頃なのかはわかりません。購入したのは1984年頃、いわゆる「ゴジラ復活フェスティバル」等が盛り上がりを見せていた頃でした。当時劇場で見ることは勿論ビデオもおいそれとは入手出来ない時代であり、サントラ盤(当然LPレコード)を繰り返し聴いてイメージを膨らませていたものです。その様な状況で発売された為か、作品紹介の紙(写真左端)が同梱されており、云うまでもなく貪る様に読みまくりました。尚、スケールは実際には1/700程度です。



DO-PE VOL. 7 1991 秋号 より転載

キットデータ

メーカー	オオタキ
スケール	1/800
当時価格	500円

このモデルは最初はゴム動力で走らせて(?)遊ぶ物だった様です。当時の潜水艦のオモチャの例に違わず、自動浮沈する設計がされているらしいです。実際に雑誌にて検証されたことがあります(左画像参照)。ちなみにこのキット、その後ガレージキットメーカーのM1号から再販された事がありました但现在では入手不可です。

きちんとリサーチされたフジミのキット(通常版とアルミドリル付の2つが発売中)も勿論魅力的ですが(当然両方とも購入済)、このキットで水辺で遊ぶのも楽しそうですね。もう1隻買っとくんだった...